



松山隆之  
(能楽師)



松山隆雄  
(重要無形文化財保持者(総合認定))



梅若実  
(人間国宝、芸術院会員)

# 重荷

白河院の庭で菊の世話をする老人山科の荘司は、女御の姿を見て恋心を抱く。朝廷に仕える臣は荘司を呼び出し、この重荷を持つて庭を百度、千度廻ることができたならば女御が思いに添えてその姿をお見せになると伝える。希望を持った荘司は重荷を持とうとするが、全く持ち上げることができず、恋は何と重荷なことかと力尽き、女御への恨みを残して悶死する。哀れに思った女御は庭に出て荘司の死を悼むが、身動きができなくなり、そこで荘司の亡霊が現れる。亡霊は恨みを述べるが、弔いをしてくれるなら女御の行く末を守護しようと言ひ、去ってゆくのだった。

# 安達原

能の演目で「道成寺」「養上」とともに三鬼女と呼ばれる「安達原」。安達原の舞台は福島県二本松市の安達太良山麓で、人を喰らっていた鬼婆の伝説が基となっています。観世流では「安達原」、他の流派では「黒塚」とも呼ばれますが、二本松には鬼婆を埋めたといわれる黒塚の碑が現在も残されており、安達原の物語は能の他にも浄瑠璃、歌舞伎、文学、オペラ、漫画など長きに渡って様々な形で表象されてきました。決して暴かれたくなかった秘密を見られ、怒りのあまり鬼と化す女「岩手」という名であったともされる女、鬼の哀しみと恐ろしさを伝える陸奥の鬼婆伝説をユネスコ無形文化遺産の伝統芸能「能」でご覧ください。

## 物語

那智の東光坊、阿闍梨祐慶(あじやうゆうけい)と山伏の一行は人里離れた陸奥の安達原で庵に住む老女に一夜の宿を借りる。女は祐慶の類みで賤しい身の営みである麻糸車を繰り、迷いのまま生きてきた自らの人生を嘆く。夜寒をしのぐため山に薪を取りに行くという女は、決して寝室を覗かないように祐慶達に約束させる。女の留守中、祐慶の従者の能力(のうりき)が隙を見て寝室を覗くと、そこには人間の屍骸が山積みになっていた。女が鬼であることを知った祐慶達は慌てて逃げ出すが、約束を破られた怒りに鬼となった女が一行を喰らおうと追いかけてくる。しかし鬼女は祐慶達に祈り伏せられ、夜嵐の音に紛れるように消えてゆくのだった。

平成30年9月24日(月休) 午後1時30分開演

- 能のおはなし
- 松山隆雄
  - 志賀野桂一(白河文化交流館コミネス館長)
  - 金澤裕史(能楽解説者)
  - 白河櫻謡会
  - 白河白謡会
  - 梅若実
- 仕舞「重荷」
- 能「安達原」
  - 前シテ 里女 松山隆之
  - 後シテ 鬼女 松山隆雄
  - 東光坊阿闍梨 村瀬 慧
  - 供山伏 矢野昌平
  - 東光坊能力 山本則秀
  - 笛 栗林祐輔
  - 鼓 田邊恭資
  - 大鼓 佃良太郎
  - 太鼓 澤田晃良
  - 後見 小田切亮磨 小田切康陽
  - 地謡 鷹尾雄紀 川口晃平 土田英貴
- || 終了予定 午後3時40分 ||
- 山中逞品 梅若実 梅若紀彰

山伏の一行が見た女の秘密  
闇に隠された心の闇とは...



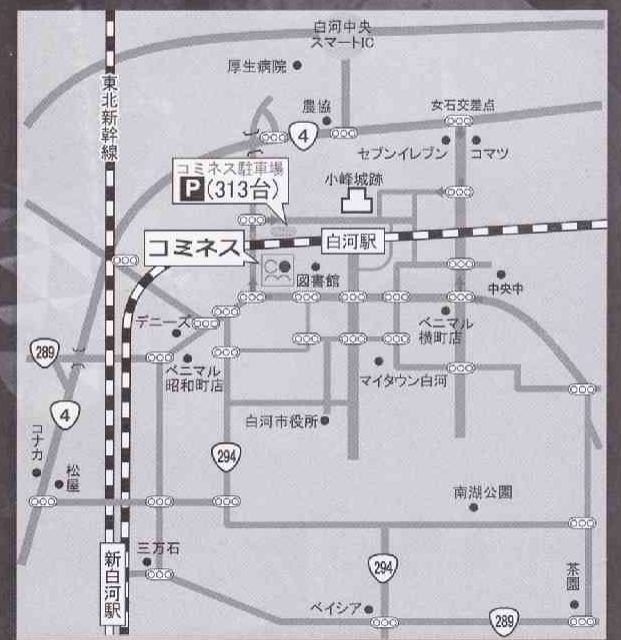
## 能楽ワークショップ

参加無料

能のお話や能の動きを取り入れた「気体運動」、謡の体験ワークショップを企画として2日間開催します。初心者歓迎。両日でも1日のみの参加でもお楽しみいただけます。  
※当日は気体運動DVDの特別価格での販売も行います。

日にち: **A**7月25日(水)「能のお話と気体運動」  
**B**8月22日(水)「能のお話と謡」  
時間: 午後1時30分から午後3時30分  
会場: 白河市立図書館地域交流会議室  
講師: 松山隆雄  
(公益財団法人梅若実 能楽師観世流、重要無形文化財保持者(総合認定)、「能楽普及推進会」主宰)

申込み: 能楽ワークショップ参加希望の旨と下記①~⑤を明記の上、郵送、FAX、E-Mailまたはコミネス窓口にてお申込みください。  
①氏名 ②年齢 ③ご住所 ④電話番号 ⑤参加希望日



コミネスを利用される方は、JR東北本線北側の「コミネス駐車場(無料)」に駐車願います。

- アクセス
- ◎白河ICより車で20分
  - ◎白河中央ICより車で5分
  - ◎新白河駅より車で7分
  - ◎白河駅より徒歩5分
  - ◎コミネス駐車場より徒歩6分

お問い合わせ  
白河文化交流館コミネス(大曜日休館を除く9:00~20:00)  
〒961-0075 福島県白河市会津町1-17  
電話/0248-23-5300 FAX/0248-23-5315  
E-mail/jigyuu@cominess.jp

主催/白河市、白河文化交流館コミネス  
後援/白河市教育委員会 協力/白河櫻謡会、白河白謡会、玄豆屋